



学内広報

No.1326

2005.12.14
東京大学広報委員会



農学部3号館前のクリスマスツリー (6ページに関連記事)

CONTENTS

特別記事

第4回ホームカミングデイ、開催！ 2

一般ニュース 4

東京大学教職員永年勤続者の表彰について、入試事務
室の設置、平成18年度大学入試センター試験の本学割
当数決まる

キャンパスニュース 8

平成17年11月1日現在学生数

部局ニュース 10

東大シンポジウム International Symposium on
Genome-Wide Epigenetics 2005が開催される、「三木
正司奨学基金」記念銘除幕式、動物慰霊祭開催される、
農学部3号館中庭完成！、21世紀COEプログラム「戦
略的基礎創薬科学」第3回国際シンポジウム「創薬科
学とケミカルバイオロジー」開催される、外国人留学
生見学旅行・日光バスツアーを実施、留学生のための
地震防災セミナー開講、『アフリカの骨、縄文の骨ー遥
かラミダスを望む』展の内覧会・レセプション開催さ

れる

掲示板 15

平成18年度入試に伴う臨時措置（本郷キャンパス）に
ついて、平成18年度入試に伴う臨時措置（駒場関係）
について、年末年始の体育施設の受付業務、広報セン
ター年末年始休館日のお知らせ、平成18年度東京大学
基金による長期派遣経費助成の募集について、「教養学
部報」第488(12月7日)号の発行、生産技術研究所にお
ける学術講演会「科学技術が創る未来社会」の開催、
生産技術研究所「産学連携フォーラム2006」開催、
『アフリカの骨、縄文の骨ー遥かラミダスを望む』展の
お知らせ、データベース定期講習会のお知らせ

事務連絡 人事異動（教員） 23

EVENT INFO 23

淡青評論 Scheinのよしあし 24

コラム

弥生キャンパス クリスマスツリー2005 6

調達本部です 第1回 6

Flags運動紹介No.5 7

史料編纂所技術部（史料保存技術室）の業務紹介 14

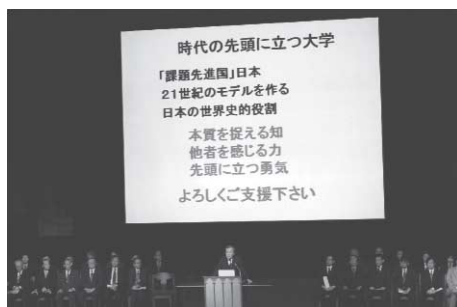
コミュニケーションセンターだよりNo.9 22

ボランティアによる三郎池環境整備を実施 22

第4回東京大学ホームカミングデイ、開催！

卒業生やそのご家族・ご友人をキャンパスにお迎えするイベントであるホームカミングデイが、11月19日（土）、本郷・駒場の両キャンパスで開催されました。当日は晴天に恵まれ、両会場を合わせて3,000名を超える方がご来場されました。懐かしい教室や講堂を訪ねる方や、卒業生らによる落語やコンサートを楽しまれる方、一緒に来た家族にキャンパスの説明をする方など、思い思いに一日を過ごされたようです。当日の様子を、いくつかご紹介します。

昨年に引き続き、渡邊あゆみ氏（NHKアナウンサー、昭和57年教養学部卒）によるテンポのよい司会で進行。小宮山総長より、本学を取り巻く環境や大学が目指す方向性についてメッセージがあり、さらに卒業生室長をつとめる桐野理事（副学長）より、卒業生とのコミュニケーションをより深めていくための取り組みについて説明がありました。➡



ハイライトは、本学応援歌として長年間愛され続けている応援歌「ただ一つ」の作詞者と作曲者が、実に50年余りの時を経て初対面を果たしたことです。作詞者大森幸男氏（昭和24年法学部卒）と作曲者山口琢磨氏（昭和21年第一工学部卒）は、80歳を超えておられますが、大変お元気な姿で登壇。当時のエピソードをユーモアたっぷりに披露され、会場は温かな笑いに包まれました。（囲み記事参照）➡

記念式典



その後、管弦楽団の演奏にのせてコールアカデミー・アカデミカコールが「ただ一つ」を斉唱。さらに、応援部吹奏楽団の伴奏と応援部主将のエールにより会場全員で「ただ一つ」を斉唱し、場内は大変盛り上がりしました。中には涙を浮かべる卒業生の姿も見られました。



「ただ一つ」誕生秘話

- 終戦直後の昭和21年、東京六大学野球で決勝戦まで進んだ東大が、惜しくも優勝を逃したことから、当時の南原総長が「東大にも応援歌を！」と提案され、公募により作られました。
- 作詞者大森氏によれば、「ただ一つ」とは東大のこと。戦地から戻った学生らが銀杏並木にあふれ返る光景を見て、彼らが、一番いい大学である東京大学が、これからの日本を作ってくのだ、という思いから作られたとのこと。
- 作曲者山口氏によれば、お二人が50年以上も面識がなかったのは、当時、表彰式に山口氏が風邪で欠席されたためとのこと。

※詳細は、ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/hcd.html>

特別鼎談 日本映画の「現在・過去・未来」～国際的な観点から～

映画監督吉田喜重氏（昭和30年文学部卒）、そして監督のよきパートナーであり映画女優の岡田茉莉子氏をお招きし、蓮實重彦元総長が進行役を務めました。多くの貴重な映像をまじえながら、吉田監督作品の歴史や海外での評価などが語られました。多くの裏話が披露されましたが、中でも、「映画界が本当に自分に向いているのかと迷ったときに、当時の指導教官に『映画の世界が合わないと思ったら、いつでも戻ってきなさい。大学は永遠に門戸を開いています』と言われた」という吉田監督の松竹入社時のエピソードには、当時の大学の寛容な雰囲気を懐かしく思い出された方も多かったのではないのでしょうか。



◆東大落語会寄席

落語研究会の卒業生による寄席が開催されました。普段から鍛錬を重ね、たびたび寄席を開催されるほどの方々ですから、入場無料が信じられないほどの完成度。会場内は常に満席となりました。「愛子亭朝大（あいしていちようだい）」などユニークな芸名の出演者たちも、普段は現役の裁判官や元商社マン、鉦山技師などとのこと。東大卒業生ならではの層の厚さを感じさせました。



◆本郷いちよう藝術祭 現役学生によるキャンパスツアー 懷徳館一般公開

「本郷いちよう藝術祭」では、卒業生や現役学生が、オーケストラやダンスなどの披露を行い、大いに会場を沸かせました。キャンパスツアーは、通常1周2時間のコースで行われていますが、ホームカミングデイのために1時間のコースを準備、400名を超える参加者があり大好評でした。懷徳館の一般公開では、現役の茶道部員の学生による茶会・喫茶サービスも行われ、孫のような学生のお手前に目を細める卒業生の姿が見られました。



この日を通じて、卒業生は、久しぶりに現在の東京大学の様子を知り、現役学生や教職員と交流したり、旧交を温め、在学当時を懐かしく思い出すなど、収穫の多い一日となったことと思います。

また、大学としても、卒業を機に縁が遠くなってしまった卒業生の方々に、現在の東京大学をよりよく知っていただくことができたと思います。

このホームカミングデイを機に、卒業生と大学との関係が、今後ますます深まっていくことを期待しています。

来年のホームカミングデイは、平成18年11月11日（土）に開催されます。卒業生の声も取り入れながら、よりよいものにしたいと思います。

本年度のホームカミングデイにご協力いただいた各部局の皆様・本部事務の皆様、ありがとうございました。今後とも卒業生との連携について、ご理解とご協力をお願いいたします。

【東京大学卒業生室】
(総務部渉外グループ)

※ホームカミングデイの様子は、ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/hcd.html>

◆特別展示

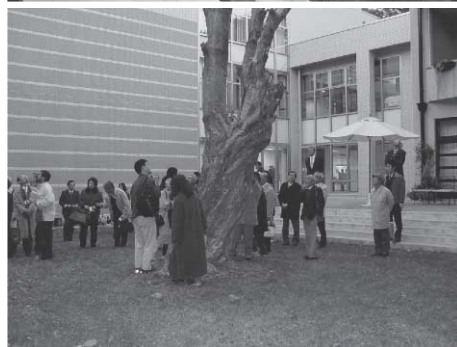
史料編纂所「国宝・重文展」
総合図書館「東大黎明期の学生たち」
総合研究博物館「Systema Naturae」

貴重な資料を所蔵する各部局の展示会も大好評で、中でも史料編纂所の展示には、1,000名を超える来場者がありました。本学ならではのアカデミックな企画に、来場者からは大満足の声が聞かれました

◆駒場キャンパス

木畑洋一教養学部長による挨拶と小島憲道副学部長による現状報告に続き、本郷での特別鼎談がインターネットにより中継されました。一方、立花隆特任教授と黒田玲子教授による「科学と社会のよりよきコミュニケーション」と題した特別講演会も行われました。両氏の鋭い問題提起に様々な年代の聴衆が熱心に耳を傾け、予定をオーバーして質疑も活発に行われました。

また、梶幹男秩父演習林長と箸本春樹氏による「駒場の樹木をめぐる講演会」にも多くの方が集い、キャンパスの樹木を解説しながらネームプレートをつけるツアーが行われました。家族連れもまじえた和やかな雰囲気、ぜひ来年もこの企画を、という声があちこちから聞こえました。



◆学部・大学院別の懇親会等

夕方からは、出身の学部・大学院・研究所にて懇親会等が開催され、600名近い卒業生やご家族が、教員や同窓生と旧交を温めました。



人事部

東京大学教職員永年勤続者の表彰について

今年度の東京大学教職員永年勤続者表彰式が、11月22日（火）午前10時から本部棟12階大会議室において、総長、濱田理事、上杉理事、関係部局長及び関係事務（部）長等の列席のもと行われた。



小宮山総長から表彰状及び記念品を受ける巻瀧千恵さん

被表彰者124名には表彰状の授与されるとともに記念品が贈呈され（代表 海洋研究所事務部長 巻瀧千恵さん）、総長の挨拶のあと被表彰者を代表して、医科学研究所総務課栄養管理室長 畠山高年さんより謝辞が述べられた。



小宮山総長に謝辞を述べる畠山高年さん



挨拶をする小宮山総長

なお、本年度表彰された方々は次のとおりである。

総務部

人事部

財務部

施設部

学生部

研究協力部

アイソトープ総合センター
情報基盤センター

大学院法学政治学研究科・法学部
大学院医学系研究科・医学部

医学部附属病院

加藤	貴彦
松下	冬樹
大木	義之
小寺	孝幸
松田	成史
米山	浩浩
若林	美由紀
石津	守康
小澤	敦美
及川	俊哉
小林	寛夫
小森	孝也
中平	牧仁
渡邊	良一
阿部	正勝
岡田	弘樹
岡本	達夫
佐藤	雅之
須藤	秀和
佃部	成雄
安成	久間
神野	信吾
佐野	公一
吉野	明美
大槻	健二
高橋	正規
高橋	利枝
高橋	帝子
藤本	孝子
細谷	敦一
青木	健一
赤塚	美智子
大江	文彦
大鹿	孝子
菊地	里子
木村	綾子
熊谷	憲子
下川	尚子
白木	祐美
鈴木	光代
相馬	勝行
田部	富士子
豊田	

	長 島 洋 子	
	成 田 和 彦	
	根 本 浩 三	
	後 村 雅 代	
	橋 本 ユ ミ	
	長谷井 百 合	
	増 田 知 子	
	森 山 千 恵	
	山 本 恵 美	
	渡 邊 将 敏	
大学院工学系研究科・工学部	有 森 健 晴	
	市 毛 健 一	
	猪 塚 和 彦	
	榮 慎 也	
	佐々木 毅 明	
	蠅 野 利 子	
大学院人文社会系研究科・文学部	二 石 利 茂	
	金 木 伸 一	
大学院理学系研究科・理学部	川 崎 茂 己	
	大 塚 淑 美	
	河 島 晋 二	
	栗 栖 敬 子	
	櫻 井 英 雄	
大学院農学生命科学研究科・農学部	寺 田 美 彩	
	大 星 栄 和	
	大 村 教 武	
	岡 田 弘 光	
	千 嶋 昌 久	
	中 嶋 上 雅	
	根 田 雅 俊	
	平 岡 功 雄	
大学院総合文化研究科・教養学部	村 川 弥 和	
	村 海 由 美	
	鳥 井 英 明	
	松 下 薫 彦	
	山 田 永 子	
大学院教育学研究科・教育学部	吉 田 直 美	
	米 山 健 夫	
	廣 井 香 織	
	細 田 淳 人	
大学院情報学環・学際情報学府	前 口 正 史	
医科学研究所	山 士 泰 夫	
	福 塚 富 豊	
	石 下 野 一	
	井 小 田 伸	
	金 田 伸	

地震研究所

社会科学研究所

生産技術研究所

史料編纂所

海洋研究所

物性研究所

柏地区事務部

久保田 和 人
古宇田 稔 司
佐 納 悠 子
菅 原 英 子
田 川 優 子
畠 山 高 年
鈴 木 貴 博
高 島 悟 史
麦 谷 重 男
林 浩 彦
森 田 英 嗣
山 岸 智 幸
和 智 志 江
大 矢 俊 治
加 藤 洋 一
木 村 久 雄
後 藤 清 正
中 野 美 由 紀
野 沢 和 子
宗 像 光 博
渡 邊 康 裕
鎌 田 稔 義
相 見 治 夫
片 岡 一 進
中 山 千 恵
卷 渚 谷 孝
澁 野 と み
萩 木 久 雄
押 佐 藤 省 二
以上124名

学生部

入試事務室の設置

平成18年度入学試験に関する事務を処理するため、1月1日（日）から3月31日（金）までの間、入試実施委員会のもとに、入試事務室が設置されることとなった。

入試事務室は、入試課長を室長に室長補佐及び室員若干名をもって構成される。

室員は、入試課職員のほか、総務部、人事部、財務部、施設部、学生部、研究協力部等から派遣される事務職員で、およそ3ヶ月にわたり、入学試験に関する業務にあたる。

学生部

平成18年度大学入試センター試験の本学
割当数決まる

平成18年度大学入試センター試験の東京地区での割当数が、74,175人に決まり、このうち本学が分担する志願者数は10,675人に確定した。

なお、平成18年度は、都立高等学校1校・私立高等学校4校の計5校を借用して実施することになった。各試験場ごとの割当数及び担当学部は、次のとおりである。

試験場名			志願者数	担当学部
1	東京大学 本郷試験場	法学部	985	法 学 部
		経済学部	625	経済学部
		工学部	993	工 学 部
		その他	9	薬 学 部
		小計	2,612	
2	東京大学教養学部試験場		3,067	教養学部
3	都立白鷗高等学校試験場		720	教育学部
4	私立富士見丘高等学校試験場		1,120	医 学 部
5	私立海城高等学校試験場		1,081	文 学 部
6	私立東京女学館高等学校試験場		1,040	理 学 部
7	私立開成高等学校試験場		1,035	農 学 部
合 計			10,675	



噴水

弥生キャンパス クリスマスツリー2005

毎年クリスマスが近づきますと、農学部3号館前の銀杏の木を華麗にライトアップしていることは皆様ご存じのことと思います。これは例年農学生命科学研究科獣医学専攻の学生が中心となってライトの飾り付けを行なっているものです。

今年も12月12日（月）に点灯式を行ない、クリスマス気分をおおいにかもし出しております。1月6日（金）まで点灯しておりますので、ぜひ一見あれ。

（大学院農学生命科学研究科・農学部事務局）



調達本部です



第1回「印刷」

前号の学内広報では、調達改善の現状と対策について特別記事でご紹介しましたが、今号から「調達本部です」を掲載することとなりました。調達改善の具体的な取組を紹介しますので、ぜひご覧ください。第1回目となる今回のテーマは「印刷」です。

東大から発注される印刷物は、その規模・印刷の態様とも実に様々です。従ってそれぞれの印刷物に応じて、得意分野を持った中小業者に発注されるケースが多く、無数の印刷物を大手業者に「まとめて」発注することは現実的ではありません。

ということは、サプライヤーの絞り込みによる契約集約という調達改善手段がとりづらいことを意味します。そこで、印刷における調達改善は、新規業者の参入を促すことが中心になりました。

今回、調達本部が取り組んだ最初の印刷案件は、皆さんもよく手にされる「東京大学の概要」です。様々なルートを通じて、これまで東大では取引のなかった業者に声をかけて参入を促しました。

様々な業者から見積もりをとる際、ただ安ければよいというわけではなく各業者の値段の差がどこにあるのかを的確に把握しなければ、履行確保がおぼつかないこととなりかねません。そこで、独自の「見積もりフォーマット」を作成して、業者の見積もり内容を事柄別に比較できるようにしました。

東京大学の概要
2005

<印刷価格の前年度比較>

(単位:千円)

区分	平成16年度版		平成17年度版	
	印刷価格	部数	印刷価格	部数
和 文	1,880	10,000	1,339	10,000
英 文	1,708	7,800	1,092	8,200
中国語	-	-	889	3,000
計	3,588		3,320	

「東京大学の概要」の印刷には、全く新規の業者4社を含めて6社が参加し、昨年同様の日本語版については、1冊あたり29%の削減が実現し、今回から制作されることとなった中国語版3,000部を含めた総額ベースでも、前年度を8%ほど下回る結果となりました。

「初回にしては…」と自負する一方で、全てがこんなにうまくいくとは限らないと自戒もしているところです。ただ、本学の物件費実績調査によれば、16年度に

「印刷」というカテゴリーに分類された経費は調査対象の9部局で5億円にのぼり、これをもとに推計すると全学の運営費ベースでは、13億円以上ですから、期待は膨らみます。

今回採用した「見積もりフォーマット」により、いろいろなケースの見積もりをデータベース化することで、かなり強力な武器を手にすることができると確信しています。

調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

軟式庭球部

○軟式テニスとは？

軟式テニスは柔らかいゴム製のボールを使用します。試合はシングルス、ダブルスともにありますがダブルスの方が一般的です。ダブルスは前衛、後衛に分かれて行なうことが多いです。硬式よりも球速が遅いため後衛が決定打を放つことは難しく、前衛が勝負を決めることが多くなります。後衛同士のラリーや、前衛と相手後衛の駆け引きがこの競技の魅力だといえるでしょう。

○活動内容

私達軟式庭球部は平日は4限終了後から、休日は10時半から駒場のクレーコートで練習しています。現在関東リーグ3部（全12部中）に所属しています。3部は全国大会出場などの優れた戦績を残した選手も珍しくなく、ハイレベルな環境といえます。その中で東大はスポーツ推薦制度もなく高校時代に実績のある選手は少ないです。そのため私達はどうかやったら自分よりも格上の選手に勝てるか、ということを常に考えつつ練習しています。この姿勢が3部の中で他校と対等に渡り合うことを可能にしているのです。

○現在の部の様子

現在、部員は約20名でそのうちの半分程が1年生です。部員はみな仲がよく、決して楽ではないけど楽しい雰囲気の中で練習しています。今年、私達の部はたくさんの1年生の入部、17年ぶりの七大戦優勝、関東リーグ3部昇格などを経て非常に勢いづいています。春の2部昇格を目指してこれからも一層努力していきます。また、随時部員募集中なので少しでも興味のある方はコートに見に来て下さい。（軟式庭球部 山田 翔太）

★★DATA★★

創立：大正7（1918）年

練習場所：駒場地区テニスコート

練習日：平日16:30～日没、休日10:30～日没

年間予定：4月 関東オープン東京六大学戦

5月 春季関東リーグ戦
関東シングルス選手権
関東選手権

6月 国公立戦

7月 七大戦 京大戦

8月 全日本学生大会

9月 日立杯 大学対抗戦

10月 秋季関東リーグ戦 新進戦

11月 東京六大学戦

12～2月 オフシーズン

最近の成績：春季関東リーグ4部優勝

同リーグ3部昇格

七帝戦優勝

HP：[http://www.geocities.co.jp/Athlete-](http://www.geocities.co.jp/Athlete-Olympia/9355/index.html)

[Olympia/9355/index.html](http://www.geocities.co.jp/Athlete-Olympia/9355/index.html)

部長：雨宮慶幸（大学院新領域創成科学研究科教授）

監督：井田博史

卓球部

卓球、というと簡単で手軽に誰にでも楽しめるスポーツ、というイメージがあるかもしれませんが、競技スポーツとしての卓球は実に奥の深いスポーツで、高い身体能力と技術、知的な戦略が求められ、「100m走をしながらチェスをするようなもの」とも言われます。我々卓球部では、この卓球という奥深いスポーツに真剣に取り組んでいます。

我が東大卓球部では元世界チャンピオンの長谷川信彦氏の実兄である長谷川次彦監督の指導のもと、各選手が技術の向上に取り組んでいます。高校時代実績を持っていた選手は少ないですが、入部してから上達することによって推薦入学した私大の選手とも渡り合えるようになるのです。単にがむしゃらに努力するのではなく、各自がどのような練習をすべきかよく考え、創意工夫をこらすことを目標にしています。部員は皆非常に練習熱心で、週4回の練習の他にも自主的に練習やトレーニングを行い、各地で行われるオープン大会に参加する者もいます。

我々が目標としているのは、年2回行われる関東学生リーグ戦です。残念ながら、男子部は今秋学習院大学との入れ替え戦に敗れ、4部降格という辛酸をなめることになりました。しかし決してこれにめげることなく、むしろ今年の敗戦をバネにして来期は3部昇格、そして2部昇格を目指し日々練習に取り組んでいます。卓球部への応援を今後ともよろしくお願いします。（卓球部 竹村 浩昌）

★★DATA★★

創立：大正15（1925）年

人数：48名

練習場所：駒場地区第一体育館2階卓球場

練習日：月・水 16:30～、土16:00～、日15:00～

年間予定：5月 関東学生リーグ（春季）

8月 インカレ

全国国公立戦

9月 関東学生リーグ（秋季）

七大戦

その他各種試合、他大との定期戦など

最近の成績：インカレ関東予選通過（男子）

東京地区国公立大会優勝（男子）

関東学生リーグ

男子3部6位（4部降格）

女子3部5位

HP：<http://www3.to/tttc/>

部長：瀧田佳子（大学院総合文化研究科教授）

監督：長谷川次彦（昭和38年卓球部OB）

平成17年11月1日現在
学部学生・研究生・聴講生数調査

種別 入進学 年度別 性別 学部・課程別	在籍者										在籍者のうち、外国人学生 及び休学者 (再掲)				研 究 生				研究生のうち 外国人 (再掲)				聴 講 生			
	平成17年度		平成16年度		平成15年度 (以前)		平成14年度		平成13年度 以前		小 計		合 計		外国人学生 休 学 者		男	女	計	男	女	計				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計											
前期課程・教養学部	2,544	621	2,458	653	382	32	-	-	-	-	5,384	1,306	6,690	109	51	160	39	8	47	-	-	-	-	-	-	
	497	135	469	127	240	55	-	-	-	-	1,206	317	1,523	15	6	21	19	11	30	-	-	-	-	11	3	
	87	16	88	13	79	19	86	15	11	5	351	68	419	0	0	0	6	2	8	19	8	27	0	0	-	
	22	16	20	15	2	1	-	-	-	-	44	32	76	1	1	2	4	2	6	5	17	22	0	0	-	
後期課程	健康科学・看護学科																									
	工学部	848	66	883	69	124	7	-	-	-	1,855	142	1,997	62	9	71	36	1	37	15	3	18	6	0	6	9
	文学部	220	127	215	131	135	47	-	-	-	570	305	875	2	8	10	13	13	26	5	1	6	0	0	-	-
	理学部	265	28	268	34	48	5	-	-	-	581	67	648	6	5	11	5	1	6	1	0	1	0	0	0	6
課程	農学部	195	66	201	50	33	4	-	-	-	429	120	549	3	4	7	5	3	8	6	14	2	0	2	0	0
		19	12	20	10	19	11	19	12	0	77	45	122	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
	経済学部	290	61	287	56	115	9	-	-	-	692	126	818	8	10	18	12	4	16	-	-	-	-	3	0	3
	教養学部	138	56	128	59	55	30	-	-	-	321	145	466	7	3	10	9	8	17	2	3	5	0	1	1	8
課程	教育学部	72	42	60	34	20	13	-	-	-	152	89	241	1	1	2	1	4	5	3	5	8	0	0	-	-
	薬学部	58	36	54	35	4	0	-	-	-	116	71	187	6	1	7	3	1	4	4	2	6	0	0	1	1
	小 計	2,711	661	2,693	633	874	201	105	27	11	5	6,394	1,527	7,921	111	48	159	113	50	163	62	45	107	8	1	9
	合 計	5,255	1,282	5,151	1,286	1,256	233	105	27	11	5	11,778	2,833	14,611	220	99	319	152	58	210	62	45	107	8	1	9

備考) 1. 農学部の上段は獣医学課程を除く各課程の合計数を、下段は獣医学課程の数を示す。

2. 平成15年度(以前)の欄については、医学部医学科・農学部獣医学課程は平成15年度入進学者のみ、他の学部学科は平成15年度以前の入進学者数を示す。

平成17年11月1日現在 大学院学生・研究生・外国人研究生数調

研究 科 等 名	種 別 課程別 入進学 年 度	在 籍 者										在籍者のうち 外国人学生(再掲)				在籍者のうち 休学者(再掲)				大 学 院 大 学 人 研 究 生				大 学 院 大 学 人 研 究 生				特 別 研 究 生														
		修 士 及 び 専 門 職 学 位 課 程					博 士 課 程					合 計		修 士(専門職 学位課程)		博 士 課 程		修 士(専門職 学位課程)		博 士 課 程		修 士(専門職 学位課程)		博 士 課 程		修 士(専門職 学位課程)		博 士 課 程		修 士(専門職 学位課程)												
		17年度		16年度		15年度		17年度		16年度		15年度		14年度		小 計		計		男		女		男		女		男		女		男		女								
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計						
人文社会系		72	55	90	70	54	32	216	157	373	61	43	70	37	78	53	137	87	346	220	566	939	17	21	32	40	110	9	9	102	66	186	24	33	57	6	4	10	0	0	0	0
教育 学		45	30	33	31	4	5	82	66	148	17	24	14	26	20	18	28	37	79	105	184	332	2	16	10	19	47	3	3	22	33	61	4	7	11	2	4	6	0	0	0	0
法学 総合法政 政治学		10	6	9	12	8	5	27	23	50	17	6	16	10	9	2	19	14	61	32	93	143	8	12	7	8	35	2	0	9	7	18	14	13	27	0	0	0	0	0	0	0
経済 学		51	17	43	8	6	3	100	28	128	30	2	31	3	27	9	41	9	129	23	152	280	6	4	10	5	25	3	1	43	9	56	4	3	7	5	1	6	0	0	0	0
総合文化		150	96	149	98	40	23	339	217	556	98	63	111	68	113	60	151	154	473	345	818	1,374	24	37	46	69	176	17	15	106	116	254	17	27	44	10	8	18	7	4	11	4
理 学 系		299	72	273	59	24	4	596	135	731	192	40	188	28	137	45	74	15	591	128	719	1,450	10	3	24	8	45	15	6	12	4	37	4	2	6	17	3	20	5	3	8	8
工学系		806	105	690	91	62	12	1,558	208	1,766	289	42	265	51	222	45	116	32	892	170	1,062	2,828	145	62	288	86	581	24	5	33	20	82	50	26	76	5	3	8	2	3	5	10
	原子力	(15)						(15)		(15)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(15)																		(1)	(1)	
農 学		200	87	217	101	20	4	437	192	629	94	42	105	43	100	41	49	23	348	149	497	1,126	28	24	49	39	140	8	3	14	12	37	13	13	26	11	4	15	5	5	10	10
生命科学		-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	5	14	8	17	5	15	8	60	30	90	90	-	-	11	6	17	-	-	1	1	2	4	5	9	2	1	3	0	0	0	0
医学		-	-	-	-	-	-	-	-	-	157	54	141	64	131	71	121	62	575	271	846	846	-	-	46	43	89	-	-	23	23	46	9	16	25	3	1	4	23	9	32	32
医学系		31	27	25	33	7	13	63	73	136	14	29	16	27	9	24	1	9	40	89	129	265	11	10	13	13	47	7	9	2	12	30	2	6	8	0	0	0	0	4	4	4
医科学		10	11	10	9	1	0	21	20	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	0	0	0	0	-	0	1	0	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬 学 系		67	31	63	32	3		133	63	196	39	14	45	7	38	10	2	124	31	155	351	4	4	2	4	14	0	2	0	1	3	2	2	4	4	3	7	9	4	13	13	13
数理科学		38	2	34	2	8	2	80	6	86	17	0	20	0	17	3	12	0	66	3	69	155	4	1	10	2	17	2	0	1	0	3	2	0	2	3	1	4	1	0	1	1
新領域創成科学		338	83	299	90	34	9	671	182	853	112	30	74	33	94	32	29	12	309	107	416	1,269	47	17	37	17	118	15	9	21	7	52	7	4	11	6	2	8	8	2	10	10
情報理工学系		174	19	158	12	13	0	345	31	376	61	7	58	3	48	5	13	0	180	15	195	571	29	11	47	9	96	10	0	7	1	18	12	5	17	2	1	3	1	0	1	1
学際情報		43	27	41	23	13	4	97	54	151	18	7	17	12	11	4	8	6	54	29	83	234	7	13	5	5	30	6	3	6	3	18	8	14	22	0	0	0	1	0	1	1
公共政策学		(71)	(27)	(59)	(31)	-	(130)	(58)	(188)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(188)	(9)	(6)	-	(2)	(0)	-	-	(2)	(0)	-	(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計		2,623	798	2,400	790	297	116	5,320	1,704	7,024	1,227	408	1,185	420	1,071	427	844	492	4,327	1,747	6,074	13,098	352	241	637	373	1,603	130	72	402	315	919	176	176	352	76	36	112	62	34	96	96
		(2)	(3)	(5)	(2)	(6)	(8)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	

備 考 1. 専門職学位課程は、〔 〕書きで示す。
2. 農学生命科学研究科、医学系研究科の下段学生数は、平成13年度以前の入学者を示し、外数である。
3. 大学院研究生、特別研究生数欄の()内は、外国人学生を示し、外数である。
4. 外国人学生には在日外国人を含む。
5. 教育学研究科の大学院科目等履修生(23人)
6. 法学政治学研究科の大学院科目等履修生(11人)
7. 工学系研究科の大学院科目等履修生(52人)
8. 薬学系研究科の大学院科目等履修生(22人)
9. 情報学環境教育学部研究生(148人)

大学院農学生命科学研究科・農学部

東大シンポジウム International Symposium on Genome-Wide Epigenetics 2005が開催される

11月8日（火）～10日（木）の3日間にわたり、山上会館大会議室において東大シンポジウム「International Symposium on Genome-Wide Epigenetics 2005」が開催された。Epigenetics（エピジェネティクス）は、DNAのメチル化や、ヒストンのメチル化、アセチル化などによるクロマチン構造の変化を介した遺伝子機能の変化を研究する学問領域であり、いわゆる「ポストゲノム時代」の生命科学研究において、重要な位置を占めている。

同シンポジウムは桐野副学長による挨拶で幕を開け、10名の外国人演者を含む29名の演者が、植物からヒトまで、広い分野におけるエピジェネティクス研究の最先端を紹介した。特に、DNAメチル化状況とヒストン修飾に焦点をあてたDNAマイクロアレイ法をベースとしたゲノム全域のエピジェネティクスでは、膨大な量のデータを処理するためバイオインフォマティクスとの融合が不可欠であることを印象づける発表が目立った。さらに個々の研究グループが連携を取りつつ研究を遂行する、国際ネットワークあるいは国際コンソーシアムの設立の必要性が提言された。会期を通じて学内外200名以上の参加者が活発な討論を行い、最後に、参加研究者が発信源となる「ヒトエピゲノムプロジェクトに向けての宣言」が採択され、会は盛会のうちに閉幕した。

同シンポジウムのプログラム、および「宣言」は、下記ホームページから入手可能である。

<http://cb8.ar.a.u-tokyo.ac.jp/GWE2005/informationJ.html>



桐野副学長による挨拶

大学院農学生命科学研究科・農学部

「三木正司奨学基金」記念銘除幕式

11月9日（水）、農学部2号館において「三木正司奨学基金」記念銘の除幕式が開催された。

三木正司奨学基金は、昭和58年3月に本学部農芸化学科を卒業され平成2年11月9日に不慮の事故で亡くなられた三木正司氏のお母様から、息子と同じ道を歩む学生のために役立てて欲しいと、3,000万円のご寄付をいただき平成7年に設立されたものである。本学部ではこのご厚意を「三木正司奨学基金」として平成7年から平成17年まで11年間にわたり76名の在学学生に奨学金を給与してきた。

このたび奨学基金の目的が達成されることに伴い、この功績を永く伝えていくため三木米子様をお迎えして、農学部2号館2階廊下に「三木正司奨学基金」記念の銘板を設置し、最後の奨学金授与式とあわせて記念銘の除幕式を開催した。三木米子様と會田研究科長により記念銘の除幕が行われ、會田研究科長から記念銘の紹介があった。その後三木様より謝辞が述べられ、奨学生と一緒に記念撮影を行い除幕式は終了した。



記念銘と共に

今後の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1327	1月4日（水）	1月11日（水）	1月17日（火）
1328	1月18日（水）	1月25日（水）	1月31日（火）
1329	2月1日（水）	2月8日（水）	2月14日（火）
1330	2月15日（水）	2月22日（水）	2月28日（火）
1331	3月1日（水）	3月8日（水）	3月14日（火）
1332	3月15日（水）	3月22日（水）	3月29日（水）

大学院農学生命科学研究科・農学部 動物慰霊祭開催される

12月2日（金）11時から弥生キャンパス内動物慰霊碑前で、平成17年度（第87回）動物慰霊祭が執り行われた。農学生命科学研究科では数多くの動物が教育・研究に供され、生命科学の発展に大きく寄与しており、これらの動物の霊に思いをいたし250名を超える学生・教職員が献花を行なった。



献花に先立ち、挨拶をする小野憲一郎獣医学専攻長

大学院農学生命科学研究科・農学部 農学部3号館中庭完成！

農学系事務職員が主体の園芸同好会「MIDORANGERS」（ミドリエンジャーズ）が昨年5月末から手がけていた農学部3号館中庭の整備がほぼ完了し、11月17日（木）中庭において竣工披露宴が開催された。

「MIDORANGERS」は、會田研究科長の「世界最高水準の事務部を目指していただきたい」とのメッセージの影響を受け、環境整備を業者に委ねず、自らの力で構内の環境を良くしたいとの思いから発足したグループで「仕事はして当たり前、仕事以外に何をするか、何ができるか」の精神を基本コンセプトとしている。



整備前の荒廃した中庭（平成16年5月）

グループは、まずは実践可能なことから取り組み、荒廃していた3号館中庭を開墾し、ウッドデッキのテラスを設けるとともにレンガのアプローチや花壇を設けた。また中庭だけでなく、農正門から3号館へ繋がるメインストリートの整備も行った。



會田研究科長が寄付された鯉のぼりがなびく
1年後の中庭（平成17年5月）

むろん活動はボランティアである。就業時間外それも土曜日に活動することが多かったことから「土曜大工」と称された。



キレイに整備された中庭（平成17年11月）

ウッドデッキやレンガのアプローチの設計及び造作に携わった人々は全員が素人である。しかし、素人集団の作とは思えないほどの出来映えで各方面から絶賛されている。これまで佐々木前総長を囲んで「きりたんぽの会」や各研究科長の会である「火曜の会」などのほか結婚披露宴など各種のイベント会場として利用されている。

今後、教職員及び学生の憩いの場として永く愛されるよう望んでやまない。

大学院薬学系研究科・薬学部

21世紀COEプログラム「戦略的基礎創薬科学」

第3回国際シンポジウム「創薬科学とケミカルバイオロジー」開催される

11月1日（火）、2日（水）の両日、薬学系総合研究棟講堂において標記シンポジウムが大学院薬学系研究科の主催により開催され、学内外から延べ約270人の参加者があった。

平成14年度より展開している21世紀COEプログラム「戦略的基礎創薬科学」における共同研究活動の成果を中心に、2名の外国人研究者をゲストに迎えて、Session 1「Chemical biology of lipid mediators and drug development」、Session 2「新世代のケミカルバイオロジーと創薬」、Session 3「Chemical biology of γ -secretase and drug development for Alzheimer's disease」、Session 4「一酸化窒素のケミカルバイオロジーと創薬」の講演が行われ、活発な議論が交わされた。近年創薬科学の発達とともに、低分子化合物を生命科学研究に応用する「ケミカルバイオロジー」の進展が著しいが、薬学系研究科こそがこの両者の担い手たりうるということが実感される研究集会であった。



講演されるマルセイユ地中海大・Kraus教授

情報理工学系研究科

外国人留学生見学旅行・日光バスツアーを実施

11月13日（日）、14日（月）の両日、外国人留学生見学旅行・日光バスツアーを実施した。参加者は留学生37名、引率の教職員6名の合計43名。

8時45分に、本郷キャンパス列品館前から貸し切りバス1台で日光へと出発した。教務委員長の嵯峨山教授からの挨拶の後、通訳ガイドの方から日光についての説明があった。最初に着いたのが東大附属植物園分園「日光植物園」だった。館野助教授に植物園内を案内していただき散策した。まだ紅葉が残る園内では、大正天皇の詠まれた漢詩のモニュメントの前で、中国の留学生が自国語でその詩を詠むのを聞きながら、しばし時間を忘れてひと時を楽しんだ。



植物園を出て、車窓から田母沢の御用邸を見ながら日光東照宮へと向かった。輪王寺前で集合写真を撮り、五重塔へ進んだ。左手に三猿を見ながら進み、薬師堂の「鳴き龍」を体験して陽明門をくぐり「眠り猫」を見た。その後、宿泊地である鬼怒川温泉へと向かった。宿に着き温泉を楽しんだ後、宴会形式の夕食時には留学生が浴衣に着替え、和やかな雰囲気のもと参加者相互の親睦を深めることができた。

翌日「日光江戸村」では、江戸時代へタイムスリップしたかのような町並みを歩き、いろいろなアトラクションを堪能した。

その後、いろは坂を登り華嚴の滝へ向かった。エレベーターに乗り滝壺近くの観瀑台から観る滝の姿は壮大だった。

その後車窓から中禅寺湖を眺めながら「いろは坂の下りで、運転が一番難しい急なカーブは何番目か」というバスのドライバーからのクイズの答えを皆で考えながら、ドライビングテクニックに感嘆しつつ帰路についた。大きな渋滞に見舞われることも無く、ほぼ予定時刻どおり本郷キャンパスに到着。嵯峨山教授から「留学生たちが互いに交流をもて、とても良かった」という感想をいただき、今回の外国人留学生見学旅行は、参加者全員の協力のもと多くの思い出と共に、無事終了した。



輪王寺前での集合写真

地震研究所

留学生のための地震防災セミナー開講

日本は世界でも有数の地震国であり、なかでも首都圏は過去に繰返し大きな地震災害を経験してきました。今後100～200年の間に大規模な被害をもたらす首都直下の地震が発生することも心配され、政府も本年9月に首都直下地震対策大綱を策定したところです。

一方、首都圏には多くの大学が集中し、本学をはじめとしたこれらの大学には多数の海外からの留学生が学んでいます。しかしながら、小さな頃から日本で地震を体験し地震防災に関する教育を受けてきた学生たちとは異なり、留学生の方々は必ずしも母国で地震を経験しているわけではなく、また、大学・大学院においても地震や地震防災についての知識を得る機会が決して多いとは言えません。そこで地震研究所では留学生センターと協力して、首都圏に学ぶ留学生を対象として、地震と地震防災について学ぶ「留学生のための地震防災セミナー」を実施しました。



ガイダンスを行う山岡耕春教授（地震研究所）

セミナーは留学生の語学力を考慮し、英語コースと日本語コースを設けました。10月22日（土）および29日（土）には英語コースとして、壁谷澤寿海（地震研究所）、今村文彦（東北大学）、木村宏恒（名古屋大学）、岡田義光（防災科学技術研究所）の各講師が、11月12日（土）および19日（土）には日本語コースとして山岡耕春、古村孝志（地震研究所）、武村雅之（鹿島建設）、木村玲欧（名古屋大学）の各講師が、地震や津波の発生の仕組み、耐震設計・工法、地震時の備え、首都圏での地震の特徴について講義を行い、併せて地震研究所の施設を見学しました。

このセミナーには本学だけでなく首都圏の他大学の留学生の参加があり、4日間で延べ73名（英語コース53名、日本語コース20名）が受講しました。受講生からは耐震補強の工法の詳細についての専門的なことや、自分が現

に住んでいるアパートの強度についての心配といった身近なことまで活発に質問があがりました。また、当初の計画にはありませんでしたが、受講生の内の希望者8名が11月26日（土）に東京消防庁本所都民防災教育センター（本所防災館）を訪問し、震動台で地震の揺れを体験するなどして日本での日常的な防災対策についてより具体的に学習しました。



熱心に聴講する留学生（講師は今村文彦東北大学教授）

地震国・日本では地震や地震防災に関する知識は、日本で生活していく上で不可欠のもので、文化の一部と言っても過言ではありません。留学生のみなさんには日本語や日本の文化について学んでいただくのと同様に地震や地震防災についても学んでいただきたいと考えています。理想としては各大学の留学生担当部局でこのような機会を設けていただきたところですが、当面は地震研究所がそのような学ぶ機会や情報を提供する役割を担っていきたいと考えており、平成18年度にも同様のセミナーを開講する予定です。

なお、このセミナーは科学技術振興調整費「スマトラ型巨大地震・津波被害の軽減策」（代表：東京大学地震研究所・加藤照之）により、東京大学留学生センターの協力を得て実施しました。

総合研究博物館

『アフリカの骨、縄文の骨ー遙かラミダスを望む』展の内覧会・レセプション開催される

平成17年11月26日（土）から平成18年4月16日（日）（予定）まで、総合研究博物館新館では開館10周年記念特別展示『アフリカの骨、縄文の骨ー遙かラミダスを望む』展が開催されます。

オープニングに先立ち、11月25日（金）に当館で内覧会・レセプションが開催され、山田理事、北村国立科学博物館理事のほか、報道関係者など学内外から多数の出

部局ニュース

席者がありました。また、本館の運営に長年にわたりご協力頂いたボランティアの方々への感謝状の贈呈式も行われ、盛況のうちに終了しました。

特別展示の詳細については、21ページのお知らせをご覧ください。



『縄文の骨、アフリカの骨—遙かラミダスを望む』展を担当した諏訪助教授

原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えるにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を必ず添えてください。
- ・原稿は電子データで下記まで、メールまたは学内便でお送りください。

送付先 東京大学総務部広報課

TEL：03-3811-3393 内線：22031、82032

FAX：03-3816-3913

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は毎月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合を除きます。

平成17年度の学内広報の発行スケジュール

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

噴水

史料編纂所技術部（史料保存技術室）の業務紹介

史料編纂所1階展示ロビーでは、史料編纂所の歴史と事業紹介を行う「歴史の編纂の歴史」、所蔵する名品を写真で紹介する「史料ギャラリー」「新収史料紹介」、文化財の保存・修復・複製技術を紹介する「史料保存技術室」の四テーマで常設展示を行っています。このうち「史料保存技術室」について紹介しましょう。



史料保存技術室の仕事は、史料原本への深い知識を必要とする作業です。その基礎には伝統的な経験の蓄積があります。それを象徴する史料保存技術室の宝物は、大寒の時に仕込む、腐りにくく扱いやすい修復用の「和のり」でしょうか。



史料保存技術室は修復・影写・模写・写真の四室にわかれています。修復・影写（文書の透き写し）・模写（絵画模写）の三室は、伝統的な技術、技巧により、長い時間をかけて原本の保存や複製の作成に携わっています。史料編纂所の調査探訪活動をささえている写真室は、大量の原本とそのデジタル分析を行っています。前者は伝統的、後者は現代的な技術です。技術職員は、専門的な技術と伝統をふまえ、芸術的な感性を磨きながら、史料保存技術の発展に寄与するために努めています。

これらの各室を擁する史料編纂所技術部は、日本で唯一の歴史学に関係する総合的技術組織です。

（史料編纂所事務部）

学生部

平成18年度入試に伴う臨時措置 (本郷キャンパス) について

お知らせ

I 平成18年度大学入試センター試験及び第2次学力試験（前期日程）の実施に伴う入構制限等の臨時措置（本郷関係）について

平成18年度の大学入試センター試験（平成18年1月21日（土）・22日（日））及び第2次学力試験前期日程（平成18年2月25日（土）・26日（日）・27日（月））の実施のため、次のとおり入構制限等の臨時措置をとることとする。ただし、2月27日（月）は、法文1・2号館及び山上会館の建物について、入館制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

(1) 大学入試センター試験

平成18年1月20日（金）……試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

(2) 第2次学力試験（前期日程）

平成18年2月24日（金）……試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

2. 試験場区域

試験場区域を次のとおり設定する。

- (1) 本郷区域（本郷地区から本部棟・附属病院・第二食堂建物・環境安全研究センターを除く区域）
- (2) 農学部区域（弥生地区から地震研究所・農学部グラウンド・野球場を除く区域）
- (3) ただし、大学入試センター試験にあつては、「(1) 本郷区域」のみとし、(1) 及び (2) の区域に通じる陸橋は封鎖する。

3. 入構制限等

(1) 入構許可

試験当日は、「受験者」、「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」は入構できるが、その他の者の試験場区域への入構は禁止する。

なお、入・出構の際は、警備担当者の指示に従うこと。

また、試験場区域においては、試験の妨げにならないよう静粛にすること。

(2) 「身分証明書」の提示

入構に際しては、次のとおり「身分証明書等」を提示するものとする。

- ① 「本学教職員」……「身分証明書」

※ 「入試実施本部関係教職員」は、「入試統一腕章」を着用する。

- ② 「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」……「学生証・研究生証」

- ③ 「特に入構を許可された者」……「入試特別入構証」

※ 「入試特別入構証」は、大学入試センター試験用及び第2次学力試験（前期日程）用の2種類とする。

4. 試験場区域への入・出構は、次によるものとする。

(1) 本郷区域

- ① 「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」

正門、赤門、弥生門及び薬学部角・理学部1号館と化学館裏の間・第二食堂前ゲートは入・出構可能とし、昨年度まで入・出構していた理学部化学館角は封鎖する

- ② 「受験者」

正門、弥生門及び薬学部角・理学部1号館と化学館裏の間・第二食堂前ゲート

ただし、大学入試センター試験にあつては、第二食堂前ゲートは使用できない。

なお、赤門からの入構は、正門の混雑時及び雨天・降雪時に限り中央実施本部の判断により使用する。

(2) 農学部区域

- ① 「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」

農正門及び南門

- ② 「受験者」

農正門

- (3) 上記の各門及び臨時ゲート以外からの立ち入りを禁止する。

なお、龍岡門及び池之端門は平常通りとする。

備 考

1. 報道関係者等

「報道関係者等」は、腕章による識別ではなく、広報委員長の発行する「入試特別入構証」により入構を認める。

なお、報道関係者等への対応は広報委員会を通じて行う。

2. その他

- (1) 試験場区域への車両による入・出構は、原則として認めないが、やむを得ない事由のある者の入・出構は、薬学部角ゲート・第二食堂前ゲート及び弥生門・農正門とする。

但し、オートバイについては、エンジンを切った場合のみ入・出構を認める。

- (2) 附属病院の業務は平常通りとなっており、附属病院の業務に関連して、試験場区域に入構する必要がある場合には、「教職員」については「身分証明書」、「学生・研究生」については「学生証・研究生証」、「その他の者」については「入試特別入構証」を必ず提示すること。

Ⅱ 平成18年度第2次学力試験（後期日程）の実施に伴う入館制限等の臨時措置（本郷構内）について

第2次学力試験後期日程（平成18年3月13日（月）・14日（火））の実施のため、次のとおり入館制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

第2次学力試験（後期日程）

平成18年3月10日（金）……

試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

平成18年3月13日（月）……

平成18年3月14日（火）……

試験当日のため、授業は休止する。

2. 試験場

法文1・2号館、経済学部（経済学研究科棟）、工学部5・8・14号館及び山上会館

3. 入館制限等

試験当日は、試験場を設定した当該建物への「受験者」及び「入試関係教職員」以外の立ち入りは原則として禁止する。

4. 試験場への入館

「受験者」及び「入試関係教職員」の出入口については、各建物の指定された場所とする。

備 考

1. 報道関係者

報道関係者の入館及び構内での取材については、広報委員会を通じて行う。

Ⅲ 平成18年度第2次学力試験合格発表（前期日程）の実施に伴う車両通行規制の臨時措置（本郷関係）について

平成18年度の第2次学力試験 前期日程合格発表（平成18年3月10日（金））の際、受験者等の安全確保のため、次のとおり通行規制の臨時措置をとることとする。

1. 規制区域

医学部本館前ロータリー～赤門～正門

2. 規制時間

11:00～15:00

3. 規制車両

自動車及びオートバイ（合格発表関係車両を除く）

4. 注意事項

上記2の規制時間帯以外でも、車両での通行の際は、受験者等の安全確保を第一に考え、通行すること。

学生部

平成18年度入試に伴う臨時措置（駒場関係）について

お知らせ

平成18年度の大学入試センター試験（平成18年1月21日（土）・22日（日））及び第2次学力試験前期日程（平成18年2月25日（土）・26日（日））の実施のため、次のとおり入館制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

(1) 大学入試センター試験関係

平成18年1月20日（金）……試験場準備のため、原則として午後の授業は休止する。

(2) 第2次学力試験（前期日程）関係

駒場キャンパスにおける授業ならびに学期末試験は終了しているので、この措置はとらない。

2. 試験場区域

試験場区域を別紙のとおり設定する。入試当日は黄・黒のロープによって、その境界を明示する。

3. 入構制限等

(1) 入構許可

試験当日は、「受験者」、「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」は試験場区域へ入構できるが、その他の者の入構は禁止する。

なお、試験場区域においては、試験の妨げにならないよう静粛にすること。

(2) 「身分証明書」の提示

入構に際しては、次のとおり「身分証明書等」を提示するものとする。

①「本学教職員」……「身分証明書」

②「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」……「学生証・研究生証」

③「特に入構を許可された者」……「入試特別入構証」

(3) 受験生の入・退構は、大学入試センター試験及び第2次学力試験（前期日程）とも、正門のみとする。

(4) 入試当日、北門（野球場門）・西門は閉鎖する。裏門・炊事門・梅林門・坂下門横は閉鎖しないが、学部関係者以外の者の通行を禁止する。

備考

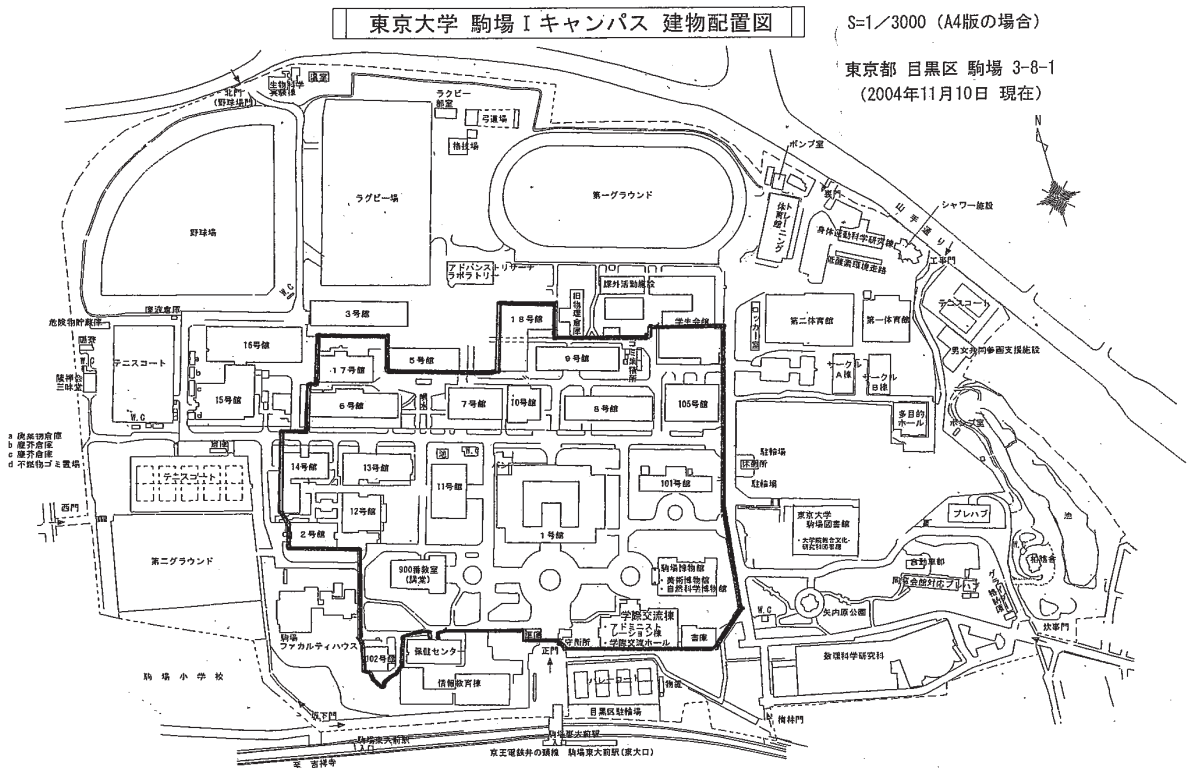
1. 報道関係者等

報道関係者等は、腕章による識別ではなく、本学広報委員会の発行する「入試特別入構証」を所持する者

のみ入構を認める（報道関係者の取り扱いは、本学広報委員会を通じて行う。）。

2. その他

入試当日、車輛の入構は原則として禁止する。



学生部

年末年始の体育施設の受付業務

お知らせ

各体育施設の窓口受付業務は12月28日（水）から1月4日（水）まで休止します。これに伴い、体育施設の使用及び受付は下表のとおり行います。

体育施設名	使用休止期間	予 約 受 付	
		対象期間	受付開始日
二食横テニスコート ※ 1	12月28日（水）～1月4日（水）	1月10日（火） ～1月13日（金）	1月5日（木）
農学部グラウンド			1月6日（金）
検見川総合運動場	12月28日（水）～1月4日（水）		学内者 12月19日（月） 学外者 1月5日（木）
保健体育寮	12月28日（水）～1月5日（木）		1月5日（木）
二食地下プール	12月23日（金）～1月4日（水）	2月分	
御殿下記念館 ※ 2	12月28日（水）～1月4日（水）		運動部 Aクラブ優先予約 12月1日（木） Bクラブ第1順予約 1月1日（日） フリー予約 1月6日（金）
御殿下グラウンド ※ 3			

※ 1 1月5日（木）～1月6日（金）分の予約日は12月21日（水）となります。

※ 2 12月27日（火）は館内清掃を行うため、15時に閉館となります。

※ 3 年末年始の鍵の貸し借りは警備室で行います。なお、同期間は専有予約以外の方の利用はできません。

問い合わせ先：学生部学生課体育チーム（内線22509～22511）

総務部

広報センター年末年始休館日のお知らせ

お知らせ

広報センターは下記のとおり休館させていただきます。

平成17年12月28日（水）～平成18年1月4日（水）
（1月5日（木）10時より開館いたします。）

研究協力部

平成18年度東京大学基金による長期派遣経費助成の募集について

募集

標記募集については、平成15年度助成分をもって一旦終了していたところですが、その後の学内での調整の結果、下記要項のとおり平成18年度助成分の募集を再開することとなりました。ついては、応募を希望する場合は、提出期限までに所属部局を通じ、研究協力部国際課まで必要書類を提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当係へお問い合わせください。また、申請書類は次のURLにてダウンロードできます。

http://www.u-tokyo.ac.jp/res02/d03_05_01_j.html

平成18年度 東京大学基金による 長期派遣経費助成募集要項

1. 趣 旨

本学の教員が、海外の優れた大学等学術研究機関において一定期間研究を行うことにより、独創的・先端的学術研究の推進に資するとともに学術研究の進展に寄与することを目的とし、教員の長期派遣に際し、必要となる経費の一部を東京大学基金から助成するものである。

2. 申請資格

本学の教授、助教授、講師及び助手

なお、東京大学学術研究奨励資金による長期派遣経費助成事業（平成14年度及び15年度に実施）、並びに文部科学省及び日本学術振興会の同種の事業（例えば文部科学省の「在外研究員」や日本学術振興会の「海外特別研究員」など）により、過去10年間に継続して

2ヶ月以上海外に派遣されたことのある者を除く。

3. 期 間

平成18年4月1日から平成19年3月31日までの期間に出発するもので、原則として2ヶ月以上6ヶ月以内とする。

4. 助成経費及び助成件数

派遣旅費を助成する。助成金額は1件当たり、200万円程度を限度とし、助成件数は3～4件程度を予定している。

※派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、日本国内空港施設使用料、滞在費（東京大学旅費規程による日当、宿泊料）とする。

5. 申請手続

別紙様式1-1、1-2及び1-3により、所属部局長を通じて総長あて提出すること。なお、各部局内においての提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

部局長においては、提出書類を取りまとめの上、平成18年1月13日（金）までに総長あて提出すること。

なお、申請が複数の場合は、順位を付した上で提出のこと（様式任意）。

6. 選考及び採否の通知

選考は「東京大学国際交流委員会」の「東京大学基金による国際交流助成専門委員会」が行い、採否の決定は平成18年3月上旬までに所属部局長あて通知する。

7. 報告書の提出

別紙様式2により、渡航の終了後、速やかに所属部局長を通じて総長あて提出すること。

8. 申請書等の送付先

研究協力部国際課研究活動支援チーム

9. 備 考

文部科学省及び日本学術振興会の同種の事業に申請中の者の本事業への申請は可能であるが、本事業の採択決定後、上記同種の事業で申請が採択され助成を受けることとなった場合は、本事業の採択辞退届（様式任意）を速やかに所属部局長を通じて総長あて提出すること。

お知らせ

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第488(12月7日)号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

寺杣友秀：数学の予想—リーマン予想

瀬地山角：ご利用は計画的に

東大駒場地区保育所からのお知らせ

村田 滋：〈学び方〉新シリーズ 化学の学び方

大学の化学に戸惑いを感じる皆さんへ

甚野尚志：〈学び方〉新シリーズ 歴史学の学び方

現在を生きる知恵

鍾 非：不平等を考える

井坂理穂：第七回東アジア四大学フォーラム・ソウル会議を終えて

渡會公治：青山先生追悼

〈本の棚〉

岡山 裕：石田勇治著『シリーズ・ドイツ現代史Ⅰ
20世紀ドイツ史』 ドイツをまとめる

〈時に沿って〉

高山茂晴：初めての駒場

生産技術研究所

生産技術研究所における学術講演会「科学技術が創る未来社会」の開催

お知らせ

本研究所では、毎年、学術講演会とよばれる討論会を開催し、工学研究・教育のあり方について議論を重ねています。本年は「科学技術が創る未来社会」というテーマで科学技術が未来社会に果たす役割について議論していきたいと考えています。

●日時：平成18年1月13日(金) 13:00～17:10

●場所：駒場リサーチキャンパス 生産技術研究所

総合研究実験棟(A n棟) 2階

コンベンションホール

東京都目黒区駒場4-6-1

●講演会の趣旨：

20世紀は、めざましい科学技術の発展によって人類の生活は著しく豊かになりました。しかしながら、水や資源の不足、地球温暖化などさまざまな問題が宿題として21世紀に積み残され、その解決には更なる科学技術の発展が不可欠となっています。また、日本に目を移せば、少子高齢化や国際競争力の低下、社会不安の増大といった難題が山積しています。私たちの子孫が21世紀そしてその後を、健康で豊かに、安全に暮らせるようにするためにはどのような技術開発を行えばよいのでしょうか。「科学技術創造立国」を国是とする日本は既に科学技術分野における世界のトップランナーの一員となっており、日本の研究者は自らの手で諸問題を解決する道を探り当てなければなりません。本講演会では科学技術が未来社会に果たす役割を議論し、理解を深めていきたいと思えます。

●講演会プログラム：

13:00～13:10

開会の挨拶

生産技術研究所所長 前田正史

13:10～13:45

「科学技術側の課題、市民の課題、それを支える人材」

東京工業大学原子炉工学研究所教授・

日本経済新聞社論説委員 鳥井弘之

13:45～14:20

「第3期科学技術基本計画と日本の未来」

東北大学名誉教授・総合科学技術会議有識者議員

阿部博之

14:20～14:55

「これからの社会における科学技術のあり方」

工学系研究科教授・日本学術会議副会長

大垣眞一郎

14:55～15:30

「未来社会に向けた工学の新展開～エレクトロニクスを中心にして～」

先端科学技術研究センター教授 荒川泰彦

15:30～15:50 休憩

15:50～16:25

「未来社会へのストーリーを作るために」

生産技術研究所副所長 浦環

16:25～17:00

総合討論 「科学技術と未来」

17:00～17:10

閉会の辞

生産技術研究所所長 前田正史

- 定員：200名
- 受講料：無料
- 参加方法：事前の申込みは必要ありません。

●連絡先：生産技術研究所 総務課広報企画係
TEL 03-5452-6017、6018 FAX 03-5452-6073
<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/>

生産技術研究所 生産技術研究所「産学連携フォーラム2006」 開催

シンポジウム・講演会

本所において、毎年産業界への発信の場として産学連携フォーラムを開催しています。

平成17年度は次のとおり開催しますので、皆様のご来場をお待ちしています。

- 開催日：平成18年2月3日（金）
- 開催場所：東京大学駒場リサーチキャンパス
駒場コンベンションホール
【A棟（総合研究実験棟）2階】

●プログラム

○講演会

13:30～14:00

「先端科学技術分野における研究開発と産官学連携への取組」

文部科学省研究振興局振興企画課長
村田 貴司

14:00～14:30

「経済社会の発展に向けた産業界と大学の連携の促進に向けて」

経済産業省産業技術環境局大学連携課長
中西 宏典

14:30～15:00

「生産技術研究所における産学連携の60年」
生産技術研究所所長 前田 正史

休 憩

15:20～15:40

「産学連携を拡大する：最新のCCR活動報告」
国際・産学共同研究センター長／
生産技術研究所教授 横井 秀俊

15:40～16:00

「文部科学省リーディングプロジェクトe-society：先進ストレージ技術およびWEB解析技術」産学連携報告

生産技術研究所教授 喜連川 優

16:00～16:20

「革新的シミュレーションソフトウェアの研究開発」プロジェクト～先端的シミュレーションソフトウェアの研究と産学連携による普及の推進～

生産技術研究所教授 加藤 千幸

16:20～16:50

「総合商社のR&D（+C）戦略について ～ナノテクを例として～」

三菱商事株式会社 イノベーションセンター技術担当部長 中澤 輝幸

○ポスターセッション

17:00～18:00 生研学術成果パネル発表

○懇談会

17:00～

●申込方法：

参加される場合は、事前登録が必要です。財団法人生産技術研究奨励会が受付事務を代行いたします。氏名、会社名、所属等所定の事項を記載の上、FAXまたは電子メールにてお申込み下さい。（平成18年1月27日（金）締切り）

詳細は、次のURLをご覧ください。

<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/shourei/>

●申込先：

財団法人生産技術研究奨励会産学連携支援室

FAX：03-5452-6096

E-mail：fpistl01@iis.u-tokyo.ac.jp

総合研究博物館

『アフリカの骨、縄文の骨ー遙かラミダスを望む』展のお知らせ

お知らせ

平成17年11月26日（土）から平成18年4月16日（日）（予定）まで、総合研究博物館新館では開館10周年記念特別展示『アフリカの骨、縄文の骨ー遙かラミダスを望む』展を開催します。また旧館では特別展示『「Systema naturae」ー標本は語るー』展を、2F展示ルームでは『重井陸夫博士コレクション ウニの分類学』展を引き続き開催しています。

私たちヒトはどのような進化を経て現代に至ったの

か。人類がたどってきた進化の道筋を実証する化石骨や古人骨資料は、フィールドワークを通じて創成され、博物館現場を中心にその科学的解釈がなされます。本展では、440万年前のラミダス猿人レプリカ標本（エチオピア国外では世界初公開）や16万年前の最古級のホモ・サピエンスなど、アフリカにおけるフィールドワークの成果と本館における研究とキュラトリアルワークの現場を融合的に展示紹介します。

『アフリカの骨、縄文の骨—遙かラミダスを望む』展
『「Systema naturae」-標本は語る-』展
『重井陸夫博士コレクション ウニの分類学』展

●会期：平成17年11月26日（土）～
平成18年4月16日（日）（予定）

●休館日：
毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し翌日休館）
平成17年12月26日（月）～平成18年1月6日（金）、
1月21日（土）、1月22日（日）、2月25日（土）、
2月26日（日）

●開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）
●会場：総合研究博物館
●入場料：無料
●問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600
●URL：http://www.um.u-tokyo.ac.jp

情報基盤センター データベース定期講習会のお知らせ

お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース定期講習会を実施します。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。どうぞお気軽にご参加ください。

また、外国人講師による英語編も好評実施中です。1月の英語編は、Web of Science Courseです。留学生の方のご参加をお待ちしております。

●会場 総合図書館1階 講習会コーナー
●定員 12名（先着順。予約不要です。会場に直接お越しください。）
●各コースの内容

<30分コース>

目的ごとにどんなデータベースがあるかを知りたい方、短時間で知識を得たい方には、こちらがおすすめです。

◆本をさがす編 ◆雑誌をさがす編
◆新聞をさがす編 ◆統計をさがす編

<60分コース>

特定のデータベースについての解説や、検索実習が中心の講習を受けたい方には、こちらがおすすめです。

◆OPAC入門編 ◆FELIX編
◆Web of Science編 ◆電子ジャーナル編

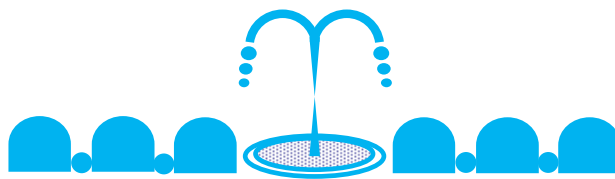
●問い合わせ先 学術情報リテラシー係（22649）
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

●1月の定期講習会スケジュール

月	火	水	木	金
1/9	1/10	1/11	1/12 15:00-15:30 本をさがす編	1/13 11:00-12:00 OPAC入門編
1/16	1/17	1/18 17:00-17:30 雑誌をさがす編	1/19 15:00-16:00 電子ジャーナル編	1/20
1/23	1/24 11:00-11:30 統計をさがす編 13:15-14:15 Web of Science [English session]	1/25 17:00-18:00 Web of Science編	1/26	1/27
1/30 17:00-18:00 FELIX編	1/31			

2月・3月のスケジュール、その他の詳細は、講習会ホームページをご覧ください。

http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html



「噴水」のコーナーにご意見を！！

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただくコーナーとして「噴水」が設けられています。

本学における教育・研究活動等に関する意見等をお寄せください。広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

[原稿の送付先]

東京大学総務部広報課

MAIL: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

[お問い合わせ]

TEL: 03-3811-3393 内線: 22031、82032

コミュニケーションセンターだより No.9

■ホームカミングデーで安田講堂内に特別出店！

11月19日に行われたホームカミングデーで、コミュニケーションセンターの「出店」を安田講堂内に設置しました。

●当日売れ筋ランキング

- 1位：ポストカード
- 2位：ボールペン
- 3位：泡盛
- 4位：クリアファイル
- 5位：光触媒シート
(店舗含む)

オープンから1周年を迎え、昨年を上回るご利用をいただきましたが、卒業生の方々の間でもUTマークを初めて知ったという方々も多く、もっとコミュニケーションを活発にして認知度アップを図る必要性を感じました。



■駒場祭にも出店！

駒場祭では教養学部の職員の方々の協力のもと、正門に入って正面右手に出店いたしました。

11月26・27日の2日間の出店ではありましたが、たくさんのお客様にご利用いただくことができました。

お客様の中には、新商品の黒のトートバック一杯に商品をまとめ買いされる方もいらっしゃり、大盛況。

●売れ筋ランキング

- 1位：ポストカード
- 2位：ボールペン
- 3位：クリアファイル
- 4位：トートバック
- 5位：ビニールバック

駒場なので「御酒」の販売は自粛いたしましたが、女性のお客様も多くトートバックなどが売れ筋となっています。

(担当：渉外本部 曾我)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html

年末年始のスケジュール
冬季休業 12月29日(木)～1月9日(月)

噴水

ボランティアによる三四郎池環境整備を実施

11月20日(日)、プロジェクトKボランティアチームが企画した三四郎池環境整備が行われました。日曜日の早朝にも関わらず、教職員とその家族、周辺の住民の方など子供から高齢者まで26名の方が集まりました。

参加者は9時30分に経済学研究科棟に集合、注意事項などの説明を受けたのち、3グループに分かれて活動を行いました。三四郎池は樹木が多く大量の落ち葉が落ちており、1時間ほどの清掃でゴミ袋65袋分の落ち葉が集まりました。またゴミも多く捨てられており、ストローなどのプラスチックゴミや空き缶・ビン・ペットボトルや傘などもみられました。



終了後は記念写真を撮影した後、豚汁がふるまわれ、なごやかな雰囲気で行われました。豚汁は農学部附属農場から提供していただいた里芋や大根を使用し、農学部関係者の方が作ってく



ださいました。

清々しい秋晴れの中、教職員・周辺の住民の方など様々な方が参加し、交流をすることができました。参加者からは「楽しかった」「いい運動になった」「またぜひ参加したい」などの声が聞かれました。また12日(土)の活動予定が雨天のため順延され、残念ながら本郷第六中学校の生徒さん及び保護者の方15名が試験のために不参加となってしまいましたが、保護者の方が参加してくださいました。

(プロジェクトK-9 ボランティアチーム)

※ プロジェクトKとは

本部の若手職員を中心に、既存の部課組織では取り組みにくいサービスを実施するというプロジェクト。ボランティアチームでは、教職員、学生、周辺の地域の方とのネットワーク作りに役立てたいとして試験的に環境整備を実施しました。

人事異動（教員）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
17.11.30	高橋 悟	辞 職	大学院医学系研究科助教授
17.11.16	COLLARD DOMINIQUE	平成17年11月15日限り 任期満了退職	生産技術研究所附属マイクロメカトロニクス国際研究センター教授
（採 用）			
17.12.1	土屋健介	生産技術研究所助教授	大学院工学系研究科研究拠点形成特任教員（特任助手）
//	稲葉 敦	人工物工学研究センター教授 （出向）	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員
（昇 任）			
17.11.16	清水 明	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
17.12.1	渡邊正男	史料編纂所助教授	史料編纂所助手
//	箱石 大	史料編纂所助教授	史料編纂所助手

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

EVENT INFO

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
第15回環境安全研究センターシンポジウム 「テクノロジー社会における安全の探求と創造」	12月26日（月） 13:00～	安田講堂	東京大学環境安全研究センター 03-5841-2972 http://www.esc.u-tokyo.ac.jp/etc/sympoH17.htm lsympo@esc.u-tokyo.ac.jp
第114回東文研セミナー 「哲学からみたセン－く権利目的説」とく厚生判断の 情報的基礎」	12月26日（月） 15:00～	東洋文化研究所 3 階大会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 池本幸生 03-5841-5877
第115回東文研セミナー 合評会 松井健『柳宗悦と民藝の現在』	1月12日（木） 14:00～	東洋文化研究所 3 階第 2 会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
生産技術研究所学術講演会「科学技術が創る未来社会」 ※19ページ参照	1月13日（金） 13:00～	生産技術研究所 駒場リサーチキャンパス 総合研究実験棟（An棟） 2 階コンベンションホール	生産技術研究所 総務課広報企画係 TEL 03-5452-6017、6018 FAX 03-5452-6073 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
第2回 愛知演習林シンポジウム－緑のダム研究の最 前線と市民・行政・研究者の協働－※1322号参照	1月28日（土） 29日（日）	瀬戸蔵 2 階つばきホール（1月 28日）東京大学愛知演習林赤津 宿泊施設講義室（1月29日）	愛知演習林 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/aichi/sympo2006.html
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
21世紀COE ものづくり経営研究センター 「ものづくり寄席」	10月～3月	三菱ビルコンファレンススクエ アエムプラス （東京駅丸の内南口）	ものづくり経営研究センター 03-5841-2272 http://www.ut-mmrc.jp/topics/yose.html
公開講座 「高校生のための金曜特別講座」（冬学期） ※1319号参照	10月14日（金）～ 2月10日（金）	教養学部11号館 2 階1106教室	教養学部社会連携委員会「公開講座」担当係 03-5454-6637 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005winter.html
「重井陸夫博士コレクション ウニの分類学」展	10月15日（土）～ 4月16日（日）	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
第32回生研イブニングセミナー 「環境に優しく、安心・安全で、快適な交通の未来に 向けて」	11月25日（金）～ 1月27日（金） 各金曜日18:00～	生産技術研究所 駒場リサーチキャンパス 総合研究実験棟（An棟） 3 階大会議室	生産技術研究所 総務課広報企画係 TEL 03（5452）6017～8 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
特別展示『アフリカの骨、縄文の骨－遥かラミダスを 臨む』展 ※21ページ参照	11月26日（土）～ 4月16日（日）	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp

Scheinのよしあし

ドイツ語にはScheinという言葉があります。例えばドイツの大学で授業を受けるときには学期末の成績表などがなくて、その代わりに先生から直接Scheinを貰います。授業参加と成績の証明書です。ほかに授業参加の記録などは残りませんので、Scheinを大事に保管して、卒業試験などを受ける前にそれを見せて、卒業する条件を満たしている事を証明します。だから当然ですが、学生はそれを貰うためにがんばって、良い成績のScheinを貰ったときには満足です。

しかし、本来ならばあまり目指すものではありません。ScheinはSein（存在）の対照概念とされ、実際の存在に対して「現れる様子」を意味します。原義から言えば、Scheinは光によって伝わるもの、またその光を指しています。Scheinは外観で、Seinは中身です。紙幣もScheinとありますが、それは金属として本当の価値を持っている貨幣（かね）に対して「価値を見せる」だけのものだからです。

なにかの「ふりをする」という事もzum Schein tun（Scheinのためにする）といいます。Scheinを目指して勉強する学生は本当の勉強をするというより勉強のふりをしているのだと言えます。本格的に勉強する人ももちろんSchein

を貰いますが、目指すのは勉強で、Scheinではありません。

事実、Scheinを持てば（ほとんど）なんでも買えてしまいます。ですから人々はScheinだけを求めて、そのScheinの裏にある本当の価値の有無を気にしていません。例えば勉強のふりをするだけでScheinを貰ったら、得したと思うのです。Scheinを安く買った、という「得感」です。

しかしこれで得したことになるでしょうか。

勉強のふりをすることによってつぶされた時間は自分の人生の大事な時間です。ただ紙一枚を貰うためにその人生の大事な時間を捨てたことになります。逆に世界万物の理解と自分自身の発展をまじめに目指してきちんと勉強すれば時間のロスは一つもない。もしかりに自分の目指している事と先生の

期待している事に食い違いがあって、Scheinを得られなくても、自分のためになったものが残って、損したとは言えません。

Scheinを気にせず、一所懸命Seinを目指す人は結局成功するのだ、と私は信じています。Scheinばかりを重要視している今日の世界の中では困難かもしれませんが、東大の学生だからこそ、自信をもってこの道を歩けるのではないのでしょうか。

Gottschewski Hermann（大学院総合文化研究科）



（淡青評論は、学内の教職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の手前を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1326 2005年12月14日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO